日時：平成28年11月21日（月）15：00～17：00

司会：教頭

出席者：学校協議会委員（6名）

大阪人間科学大学（特任教授）大阪府立北大阪高等職業技術専門学校（副校長）

大阪知的障害雇用促進建物サービス事業協同組合（事務局次長）

北河内西障害者就業・生活支援センター（主任就労支援ワーカー）

枚方市村野区（区長代理）本校PTA（会長）

学校長 事務局（9名）

1 資料の確認および次第説明（教頭）

2 校長挨拶

学校の状況を説明～夏休み中には教員全員で企業開拓を実施した。カフェは外部向けにオープンし、カフェを中心に、各授業が準備を行い、本校のキーワード「つながる～Link」を実践している。現在は学校祭に向けての準備を進めている。今年度は新しい取り組みとして、学校祭の招待者をwebによる一般募集で行った。本日の報告「学校教育自己診断」「つながるカフェプラン」「学校経営計画の進捗状況」について、ぜひご意見を伺いたい。

3 報告

① 「平成28年度学校教育自己診断の概要と診断票」について（首席）

「学校教育自己診断の実施について」概要を説明した後に「平成28年度むらの高等支援学校教育診断票 質問項目」について、昨年度からの変更点を中心に説明した。

② 「つながるカフェプラン行事連携地域連携の実践について」（支援部長・カフェ担当）

10月17日に「外部向けプレオープン」を行い、初めて外部の方をお招きした。カフェで提供するおしぼり、パンなどを専門学科の6分野で分担している。今後はおしぼり受けやカップも製造し提供してもらおう。また店内に美術や書道の生徒作品の展示も考えている。

このような授業の取り組みを、ぜひ来校者に見ていただきたい。

接客時には、想定外のこともおこるが、生徒は鍛えられる。

③ 「平成28年度学校経営計画の進捗状況について」（校長）

第一回学校協議会でいただいた意見を基に学校経営を進めている。

「MURANOキャリアプラン」「支援と指導の体制」について説明。

「防災の取り組み」は今後、枚方支援学校と連携しながら進めていきたい。

4 協議

会長：「学校教育自己診断」は質問項目が細かく丁寧に作成されている。

三者の回答を比較して差を検討する、というスタイルが一般的である。

A委員：「教育相談」「授業の見学」の項目は良いと思う。

むらのはホームページのブログ更新回数が他校より少ないのではないかな？

- 校長 : ホームページのブログ更新は一層すすめていきたい。「学校教育自己診断」は項目を各分掌で分担して作成、点検している。一項目に一質問で設定しているため、質問数が多くなった。結果をまた各担当にフィードバックして次年度の分掌活動計画に活かしてもらいたいである。
- B委員 : 進路関係の項目は丁寧で、特に問題はないと思う。
- C委員 : 項目が細かくてよい。進路項目で「外部講師」の活用状況は？
- 事務局 : 今年度は、外部講師を招いて「ビジネスマナー講座」を実施した。2月には企業の方を講師に招いての授業を予定している。
- D委員 : 私が勤務している訓練施設では学科4割、実習6割の比率で授業を行っている。実習前には実習先決定後の直前に集中して事前学習を実施しているが、学校ではどの授業でそれを行っているのか。
- 事務局 : 実習の事前学習はキャリアデザインを中心に実施している。
- 会長 : 「危機管理」の項目について、生徒用の項目がもう少し多く、内容を深めてもよいのではないか。防災教育や学校の危機管理体制についてはどのようにしているのか？
- 事務局 : 今年度は、4月に火災避難訓練、9月に880万人訓練、11月に地震火災避難訓練とともに、消防署のデモンストレーションを実施した。地震避難訓練は直前に地震があったため、緊急地震避難メールの受信時から開始する方法に変更するよう工夫した。
- 校長 : 本校は、自主通学している生徒が帰宅不可になった際のシュミレーションがまだできていない。また、PTA予算が少なく、備蓄品がなかなか整えられない。個人で「非常持ち出し袋」を持ち寄る、保護者との連絡をどうするかなど今後検討していきたい。
- 会長 : ハード面、ソフト面の両面から防災教育を進めていく必要がある。
- 会長 : 次はカフェの取り組みについて、意見をいただきたい。
- E委員 : 10月17日のプレオープンに参加した。クッキーの味も良いし、営業できると感じた。地域住民が学校を知る良い機会になるのでは。
- 校長 : カフェについては地域のコミュニティー会議で案内を配付している。
- A委員 : カフェで、自分のこどもの接客の対応が上手くできているかが心配だが、外部の方と接する点で勉強になっていると思う。
- 会長 : T高等支援学校では、学校内にコンビニを作る構想案が開校準備時代にあった。接客は難しいが、色々なスキルを獲得できるのではないか。
- B委員 : 働く意欲は働くことによってしか生まれない。
カフェの取り組みは、ぜひ発展させてほしい。
- 会長 : 学校では働くことの疑似体験が多い。むらので疑似体験ではなく実際に外部に門を開いたことはとても良いと思う。
- 事務局 : 専門分野の木工では、クリーニングで使用する受付台を製作した。生徒達が使いやすい高さや奥行きを設置予定場所で測り、協同制作し、終業式で披露した。生徒達は責任感や達成感を味わった。
- 会長 : カフェのエリアにショップ常設などはどうか。「天の川ショップ」など。
- B委員 : 今後もマンネリ化しないように、刺激のスイッチを探し続けることが

大切である。学校ができあがった後に取り組みを維持することが大切だと思う。

会長：オープンスクールの参加は何人くらいだったか？

校長：約580名。11月の学校見学会は中3生対象で、190名参加の予定である。

会長：「経営計画の進捗状況」について意見をいただきたい。

校長：「MURANOキャリアプラン」を子どもたちにとって分かり易い形で進めている。

会長：個別の教育支援計画、指導計画について意見を伺いたい。

A委員：以前、地域の学校に在籍していた時は教育支援計画の内容が薄かった。むらのに入学後、意義や内容が理解できて良かった。開示が楽しみ。

会長：市町村の学校では、内容について保護者とのすり合わせができていない場合が多い。

校長：11月の学校見学会では、中学校の保護者向けに啓発を行いたい。

事務局：前年度からの引継ぎがしっかりできると、スムーズに開始できる。本校卒業後の引継ぎもしっかり行わなければいけない。

会長：支援学校の教員から市町村の学校に向けて、啓発してもらうことが必要である。経営計画の柱である「教員の専門性向上」についてはどうか？

校長：本校では、障がい理解と就労支援の両方の資質が大切である。初任者は生徒の実習先である企業へ研修に行かせている。社会への啓発という取り組みとしては、交流教育があげられる。今年度は一般校の運動部と部活を通して交流を行った。引き続き継続して長く交流ができる学校を探したい。

会長：一般校では障がいのある生徒と共に学習する機会の少ない生徒が多い。

D委員：実習先の開拓はどのようにしているのか？

事務局：夏休み中に教員全員で開拓している。

D委員：勤務校では、担当者のみで開拓している。全員での開拓は羨ましい。

5 事務局より（教頭）

本日のご意見は今後の参考にしたい。

記録については各委員の方に確認していただくのでよろしくお願いしたい。

次回の協議会は3月1日水曜日15：00から17：00

内容は、「学校教育自己診断の結果」「学校経営計画の報告」

「防災PTの取り組みの結果」の予定。

6 学校長あいさつ

記録を見ていただき、またご意見があれば伝えていただきたい。

7 閉会（教頭）